みなみあそダイアリー

令和8年度各畜産共進会結果紹介

「第77回南阿蘇畜産共進会」が県畜産農業協同組合南阿蘇支所で開催されました。これは南阿蘇地域（南阿蘇村、高森町、西原村、山都町の一部）における優秀な繁殖牛、飼料作物を決めるもので、今回は南阿蘇村管内より計28頭、24人の出展がなされました。優秀な成績を収められた畜産農家の皆さんを紹介します。

（褐毛和種 若齢の部）

名誉賞首席
つるいずみ　松岡　英幸（長野）

名誉賞四席
たりあ　松岡　英幸（長野）

名誉賞七席
ひめ　大津　洋二（一関一）

（褐毛和種 壮齢の部）

名誉賞二席
まるはれ　長野　健生（長野）

名誉賞三席
はるひかり　光木　久幸（両併二）

（褐毛和種 成牛の部）

名誉賞首席
第2つるほし　大津　洋二（一関一）

（褐毛和種 系統の部）

名誉賞二席
第2しげつる　阪田　健一（東下田）
しげつる　阪田　健一（東下田）

（黒毛和種 若齢の部）

名誉賞二席
ひゅうが　阪田　健一（東下田）

（黒毛和種 壮齢の部）

名誉賞首席
れいか　阪田　健（第9駐在）

名誉賞二席
のぞみ181　阪田　健一（東下田）

（黒毛和種 成牛の部）

名誉賞首席
いとは　木之内勇樹（立野）

（飼料作物 乾燥の部）

名誉賞二席
テフグラス　長野　健生（長野）

なお枝肉については、8月に肉牛の部が熊本畜産流通センターで開催され、後藤春雄さん（吉田二）と後藤秀幸さん（吉田二）が去勢の部でご出展され、後藤春雄さんの陽光号が名誉賞二席に、後藤秀幸さんの葵号が名誉賞五席に輝かれました。

出展された牛たち

えほんの村づくり講座スタート！

LOOPみなみあそにて、読書立村を目指す「地域の人づくり講座」がスタートしました。

この講座では、講師にNPO法人子育て支援ワーカーズぺぺぺらんの高野和佳子さんを迎え、全3回にわたって絵本と読み聞かせをテーマにお話ししていただきます。

記念すべき第1回の「子どもの心を育てる いのちあることば～えほんがはぐくむもの～」には、配信受講含む33人が参加し、読み聞かせの重要性を学びました。親子室の設置や配信など多様なスタイルも好評でした。参加者からは、年齢を問わず読み聞かせする大切さを実感したとの声が聞かれました。

第2回講座は、次のとおり開催します。皆さんのご参加をお待ちしています。

■日時　11月25日（水）午前10時30分～
■場所　LOOPみなみあそ
■内容　テーマ別絵本の選び方①
■問い合わせ
教育委員会事務局
☎0967（67）1602

絵本での読み聞かせとともにお話をされた高野和佳子さん

消防団新入団員合同研修および幹部研修を開催

村消防団に新規入団した団員と幹部を対象に、研修および訓練が実施されました。

この取り組みは、毎年高森町消防団と合同で開催されているもので、幹部は災害発生時の統率について学び、新入団員は救急救命講習（AEDの取り扱い、心肺蘇生法、止血法、搬送法など）や規律訓練、消防器具取扱訓練（小型ポンプ・ホースなど）を行い、訓練を通して消防団員としての基本的な知識と技術を習得しました。

今回の訓練で学んだことを今後の活動に活かし、地域の安心・安全を守る消防団員として、さらなる活躍が期待されます。

敬礼の動作を確認する新入団員

交通安全活動に尽力「緑十字銅章」を受章

高森警察署にて、交通安全功労者へ表彰状の授与が行われました。これは交通安全に長年貢献した優良運転者や交通安全思想の普及に貢献した人などをたたえる国の表彰で、全日本交通安全協会と警察庁が行う「交通安全栄誉章」の一つです。

今回、村関係者では、村交通指導員立野支部長の藤原登さんと、合資会社泉建設の飯干信行さんの二人が、長年にわたる交通安全活動への貢献をたたえられました。お二人には、一般財団法人全日本交通安全協会から「交通安全栄誉章 緑十字銅章」が贈られ、緒方公一高森警察署長から表彰状が授与されました。受章を受け、お二人は「今後もより交通安全の意識を高め、みんなが安心して暮らせる地域づくりに尽力してまいります」と話されました。

太田村長と藤原登さん（写真右）

太田村長と飯干信行さん（写真右）

阿蘇郡市社会教育委員連絡協議会表彰を受賞

井手一誠さん（栃木）、長尾公代さん（中松一）が阿蘇郡市社会教育委員連絡協議会の表彰を受けられました。これは地域の社会教育や青少年の育成、学校と地域の連携などに貢献された人に贈られる賞です。

井手さんは、令和2年から村の社会教育委員を務め、令和5年からは副委員長として、地域の社会教育活動に積極的に提言するとともに、青少年育成事業にも尽力されている功績が認められ、今回の表彰につながりました。

長尾さんは、昨年度まで村地域婦人会の会長を務められたとともに、令和2年から社会教育委員として活動され、学校と地域をつなぐ活動や地域との連携・協力の推進に尽力されている功績が認められ、今回の表彰となりました。

地域社会において、今後もお二人の活動が青少年育成や地域の連携強化に大きく寄与し、より豊かで活力ある地域づくりにつながっていくことが期待されます。

表彰状を手にされる井手さん（写真左）と長尾さん（右）

修学旅行生を受け入れています

6月から11月にかけて、村にある16施設が、長崎県から小学生の修学旅行生を受け入れる「阿蘇人（あそんもん）ツーリズム」を行っています。受け入れは平成28年熊本地震の年を除き、20年以上続いているものです。

児童たちはまず、バスで道の駅「あそ望の郷くぎの」を訪れ、あそ望の郷の関係者から、平成28年熊本地震の経験や「自助・共助・公助」の大切さについて話を聞き、防災について学びます。その後は各グループに分かれ、そば打ちや草木染め、自然案内などの体験を通して、村の特産や豊かな自然、そして人と触れながら、楽しい思い出をつくっています。

株式会社あそ望の郷みなみあその田所豊英代表取締役社長は、「この経験を子どもたちが家に帰ってご家族と共有し、また村に遊びに来てもらえたら嬉しいです」と話されました。今年は、全部で26校の小学校が参加する予定です。

パネルを使って平成28年熊本地震の話をする田所代表取締役社長

「天文台浴」の実証実験を実施

南阿蘇ルナ天文台と九州産業大学が共同で、「天文台浴」の実証実験を実施し、村内の中学生7人が参加しました。これは、博物館や公開天文台などの社会的施設が持つ癒やしやリフレッシュ効果を健康増進や疾病予防に活かす「博物館浴®」の研究の一環として実施されたものです。

当日は、天体観察の前後に血圧・脈拍や心理状態を測定。生徒たちは巨大望遠鏡でベガや二重星アルビレオなどを観察し、星の色や形、距離、星の一生などについて語り合いました。

実験後には「博物館浴®」の提唱者である九州産業大学の緒方泉特任教授の講演も行われました。今回のデータの分析によると、心理測定から「疲労」「緊張」などの改善や低血圧値の上昇が確認され、「天文台浴」は調整効果やレジリエンス効果に影響があるということです。今後、村民ウェルネス推進に役立てるため、「天文台浴」の積極的な活用が検討されます。

興味深く天体観察をする生徒

第17回福祉運動会開催

南阿蘇中学校体育館にて第17回福祉運動会が開催されました。福祉運動会は、村内の高齢者が運動を通して健康保持や生きがいの高揚、お互いの親睦を深め、地域福祉の推進を図るために行われています。

当日は満60歳以上、約700人の村民が参加し、パン食い競走や輪投げなどの種目が行われました。参加者は競技に真剣に挑みながらも時には笑いが起こるなど、会場は終始和やかな雰囲気に包まれていました。周囲からも大きな声援や拍手が送られ、参加者と応援する人が一体となって大会を盛り上げました。競技を通じて体を動かすだけでなく、地域の仲間と一緒に笑い、声を掛け合い、楽しい時間を共有することで、参加者同士の交流を深める貴重な機会となりました。

輪投げをする参加者

地域の力で村をきれいに

今年もマイナビ ツール・ド・九州2026の前に、地域婦人会と有志の皆さんによる清掃活動が行われました。この取り組みは、「きれいな村を守り続けたい」という地域婦人会の皆さんの想いから始まり、今年で4回目です。久木野地区は県道矢部阿蘇公園線や新村交差点周辺のごみ拾いを実施。白水地区も両併・白川・吉田・一関・中松の各支部ごとに、ごみ拾いや草刈りを行いました。工藤富美代婦人会長は、「清掃は地道な作業ですが、きれいになった道路を見ると、活動してよかったと感じます」と笑顔で話されました。

清掃活動により、大会当日、選手は安全にコースを走り抜けることができました。

清掃に参加された久木野地区の皆さん

がんばろう熊本
マイナビ ツール・ド・九州 2026 in南阿蘇

「がんばろう熊本 マイナビ ツール・ド・九州2026大分・熊本ステージ」が開催されました。当日、選手たちは午前10時に豊後大野市からスタートし、箱石峠を越えて正午過ぎに村へ。沿道に先頭集団が通過したときには、村内外の観客から大きな歓声や声援があがっていました。白熱した攻防の結果、イヴォ・オリヴェイラ選手（ポルトガル、UAEチームエミレーツ・XRG）がゴール直前の接戦を制し、約128㎞にわたる大分・熊本ステージで優勝しました。

今大会に出場された楠本颯太さん（第3駐在）は、「大会前から、広報紙や防災無線で自分の名前を出して応援していただけて嬉しかったです。沿道でもたくさんの声援があり、感動したとともに、皆さんにも自転車のスピード感や迫力を感じていただけたと思います。今後も村でトレーニングを重ねて、国内外のレースに出場します。日頃から地域の皆さんに支えてもらっているので、これからは自分の特技や自転車を活かして恩返ししていきます」と語られました。

❶優勝したイヴォ・オリヴェイラ選手　❷楠本颯太さん（左から2番目）
❸トークショーとサイン会を行った渡辺航先生（『弱虫ペダル』作者）
❹川崎宗則大会キャプテン（プロ野球選手・写真左）と太田村長
❺子どもたちの絵やメッセージが込められた巨大幕ペイント制作
❻大勢の人でにぎわったキッチンカー